



2009年11月入職

もちづきしゅうじ
望月秀二

正しいことを、しっかりとした教育で伝える

話すことは、精神的な治療です

「この機械の裏側って、どうなっているんだろう」。子どもの頃、テレビの医療ドラマやドキュメンタリーを見ているとき、そんな疑問を持ったことを覚えています。機械で人間の体の中を見たり、機能を代替できるなんてすごいなと、興味は尽きませんでした。そんなとき、本を読んでいて臨床工学技士の仕事を知り、患者さまと会話し、間近で治療に携われることに魅力を感じたんです。機器を操作するだけではなく、話すことも、精神的な治療と言えるのではないだろうか。肉体と精神の両面から患者さまを支えていけることに奥深さを感じ、この仕事を選びました。

離れていても、成長した姿を見せたい



患者さまとのコミュニケーションの際に大切にしているのが、自分と相手の間にある壁をなくすこと。たとえば、いきなり「体調どうですか？」と聞いても、相手は質問に答えられる心の準備ができていないと、そうではなくても反射的に「大丈夫です」と応えてしまうこともあります。私が患者さまとお話する時、必ず挨拶からはじめる理由はここにあります。挨拶や世間話で相手の緊張をほぐし、本題に深く切り込んでいくというわけです。ちょっとした気遣いによって安心していただくことが出来

れば、治療もスムーズに進んでいきます。治療を行う前から、治療は始まっていると言えるのかもしれないね。

ただ、コミュニケーションを密に取っていると関係も深まっていくので、異動での別れは辛いものがあります。でも最終的には、「あなたのキャリアのためなら仕方ないわね」と、温かく送り出してもらえます。離れていても、こうやってホームページや機関誌を通じて成長した姿をご報告できるので、今回エキスパートCEに選ばれたことも、きっと喜んでくださっていると思います。いい意味で「変わったな」と思っていただけなら嬉しいですね。

これまでは性格的に、上のポジションに立つタイプではないと思っていました。でも今は、後輩を育てていきたいという思いがあります。ノウハウを自分だけのものとして留めるのではなく、見て盗めでもなく、正しいことをしっかりとした教育で伝えていきたい。それが結果として、患者さまのためにつながっていくと思っています。



誠意を持って向き合い
患者さま、スタッフの心へ
安心をお届けしたい
望月秀二